

[熊本 S.J.C.D.例会 抄録]

演題:再植歯牙喪失後にインプラントを施した一症例

演者:鶴田 善久

日付:2010年3月23日

Keywords

1. 意図的歯牙再植
2. インプラント
3. ソケットプリザベーション

抄録

2002年4月に右側頬部の腫脹を主訴に来院された33歳の女性の患者さんです。レントゲン所見にて5¹の根尖部に病巣が見られ、同日、膿瘍切開を行い、消炎を図りました。

患者のなるべく歯を残してほしいという希望もあり、5¹を一旦抜歯後、口腔外にて歯根端切除、ならびに逆根充を行い、意図的再植を行いました。その後歯槽骨の状態も安定しており、歯牙の動揺もほぼなくなりましたので、補綴物を装着しました。しかしながら再植から5年7ヵ月後、5¹の違和感を訴えられて来院されました。所見では根尖部にまでおよぶ垂直的な骨欠損および動揺が見られたためやむを得ず抜歯を行い、不良肉芽を徹底的に機械的に除去、レーザーによる蒸散をした後、骨補填材を埋入するなどして欠損骨の修復に努めました。約1年後、同部歯槽骨の修復、安定が見られたため、インプラントを埋入し、現在プロビジョナルで経過観察中です。

このようなケースの場合、どのように対応すればよかったのか、経験豊富な先生方のみならず若い先生方からもご意見を伺い、今後の診療に役立てたいと思います。よろしく申し上げます。